

キーワードは「多様性」中山間地域なのに農地集積率を77.6%まで高められた秘訣

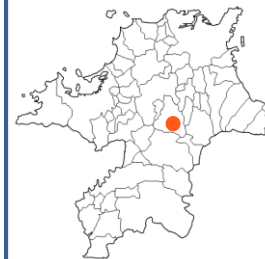
(福岡県嘉麻市小野谷農事区) おのだにのうじく

中山間地域

地域の状況

- 小野谷農事区がある小野谷集落(行政区)は水稲中心の中山間地域に位置し、本農事区は集落内の全農家(50戸)が参加する農業生産を担う組織としてH2年に設立し、農業機械の共同化や耕畜連携など地域農業全体に関する検討を開始した。
- H7年、小野谷農事区機械利用組合を設立して水稲作業の省力化に取り組み、H11～15年に実施したほ場整備(中山間総合整備事業)により農地の大区画化等を行い生産基盤は整ったが、農家の高齢化や組織化などの課題は残っていた。

福岡県嘉麻市



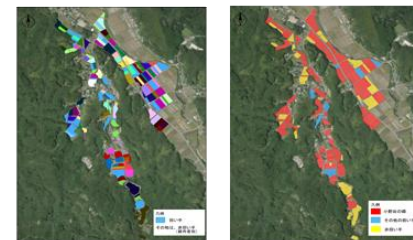
取組の内容

- H18年、本農事区は行政区住民に対して**集落営農に関する意向調査を実施**し、高齢化や後継者の不在、耕作放棄地の増加等様々な**課題を見える化**したことにより、住民の危機意識が高まり、集落営農の組織化に向けて住民全員参加による話し合いを計3回実施した。
- しかし、個人所有機械の処分や経理の一元化などの課題もあり話し合いが進まなかったことから、**農事区長主導**の下、4回目の話し合いから**取組の賛同者に絞って**行った結果、話し合いが迅速に進み、H19年2月、機械利用組合を母体とした小野谷営農組合(集落営農組織)を設立。さらにH23年6月には、集落営農法人(農事組合法人小野谷の郷)の設立を果たし、同年、同法人に農地集積(利用権設定 26ha)した。
- 法人設立後、本農事区は行政区内に**多様な職種**(建設業、銀行員、役場職員など)の**住民がいることに着目**。この地域特性(培った経験や知識、人材の多様性)と問題解決能力の向上を加速化させる技法である「**スモールステップ法**」や「**PDR法**」(※)を上手く融合し、複数の課題に対する解決策を次々に打ち出した。
 - ・ 次世代の人材育成 ~ **若手のオペレーターに大型特殊免許取得経費の50%を補助**
 - ・ 女性の雇用 ~ 法人に女性班を設け、園芸品目(テッポウユリなど)の栽培や農産物の加工部門を担当
 - ・ 鳥獣害対策 ~ 農作物被害を最小限に抑える措置として、**大豆(13ha)を飼料稲に転換**(H24年)
 - ・ 農業機械の共同化 ~ 法人に利用権設定した農地等を農地中間管理権に転換し、**機構集積協力金を活用**して共同機械を購入(H29年)



話し合いの様子

赤:(農)小野谷の郷 青:その他の担い手 黄:非担い手



(取組前: H23.2月) (取組後: R2.3月)

小野谷農事区農地利用図



現在の「むらづくり」体制

※ **スモールステップ法**: 最終目標を達成するために、目標を細分化し、小さな目標を達成する経験を積み重ねることで行動力を向上させる方法。

※ **PDR法**: 「準備→実行→見直し」を繰り返す方法。PDCA法とは違い、短期的かつ迅速な対処・分析を可能にできる。

成果

- 持続的な営農体制を整えた法人が誕生したことにより、地元の合意形成が行いやすくなり、本農事区内における**担い手への農地集積率は中山間地域としては驚異の77.6%**を達成した。
- 小野谷行政区は、中山間直接支払や多面的機能支払などに対応できる組織づくりにも取り組み、本農事区を含めた**各組織が連携した「むらづくり」**体制に発展しており、全国のむらづくり活動モデルにもなっている。